

調布市一般廃棄物処理基本計画（第 3 次）の時点修正※の概要

※計画の時点修正とは

行政計画の「時点修正」とは、中長期的な計画について基本理念や方針、施策体系といった枠組みを維持しつつ、計画策定後の社会情勢の変化や統計データ、事業進捗等を反映して記載内容を最新化することをいいます。

(1) 調布市一般廃棄物処理基本計画（第 3 次）の概要

- 一般廃棄物処理基本計画は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（以下、「廃棄物処理法」という。）第 6 条第 1 項に基づき、市町村の一般廃棄物処理に係る長期的な方針を定める計画です。
- 現行の市の一般廃棄物処理基本計画（第 3 次）は、令和 5（2023）年度から令和 12（2030）年度までの 8 年間の計画です。
現行計画策定時において、社会情勢の動向等に応じて、中間の令和 8（2026）年度に時点修正等を検討することとしています。

(2) 計画 4 年度目の状況について

①基本計画に定めた施策等の推進

一般廃棄物処理基本計画の施策体系、重点施策に基づき取組を進めています。

- 現行計画のごみ処理基本計画の施策体系は図表 1 に示すとおりです。
- 市は、施策体系における 6 つの重点項目を実現するための取組を毎年度の実施計画に位置づけ、計画の基本理念や計画目標の達成を目指しています。

②市を取り巻く社会的動向について

国の法制度や計画といった社会情勢に大きな変化はありません。

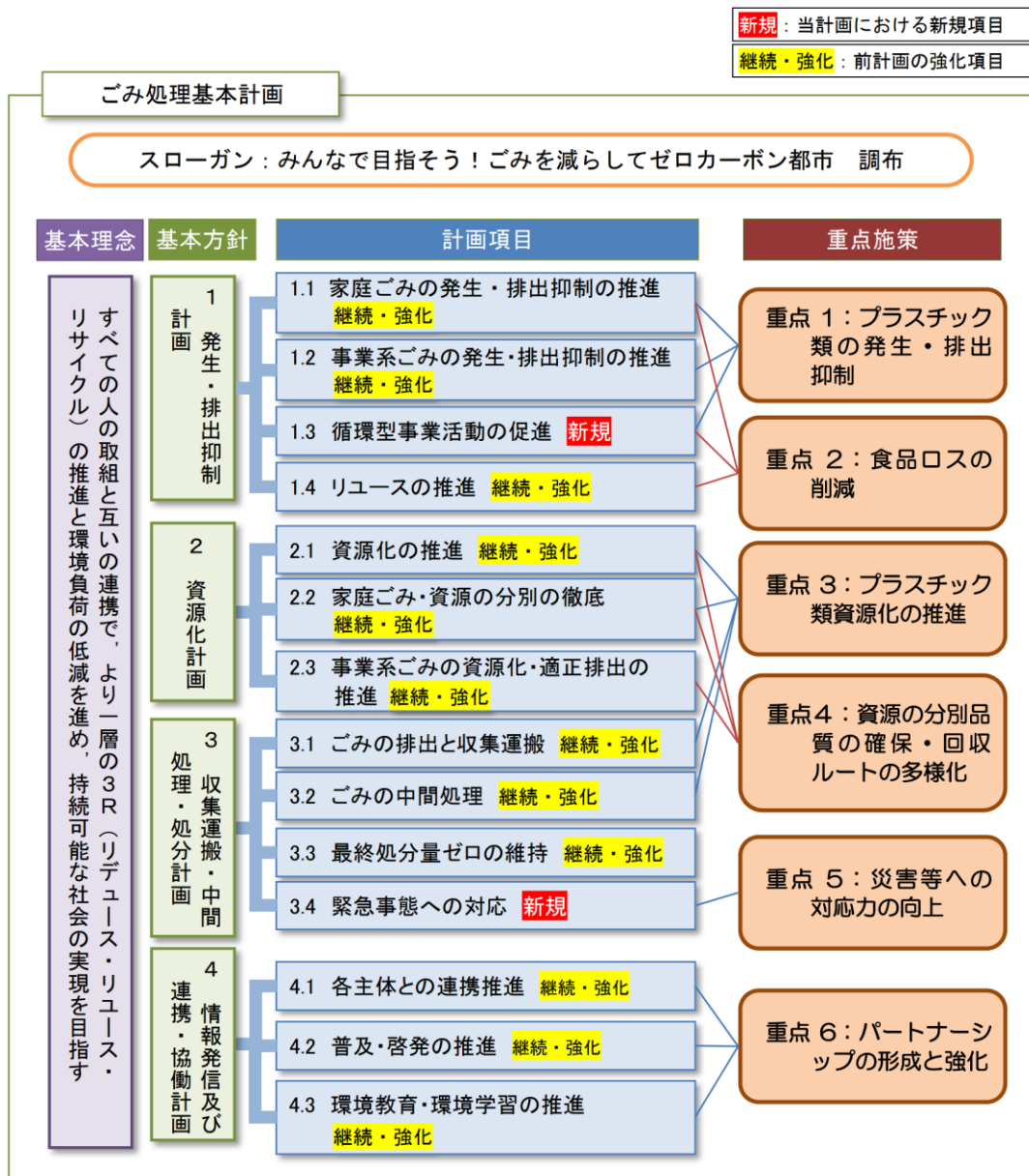
- 現行計画策定時から現在に至るまで、国の計画（循環型社会形成推進基本計画）や東京都の計画（東京都資源循環・廃棄物処理計画）は更新されたものの、現行計画の枠組みに大きな影響を及ぼすようなものではありません。

③ごみ量等の実績について

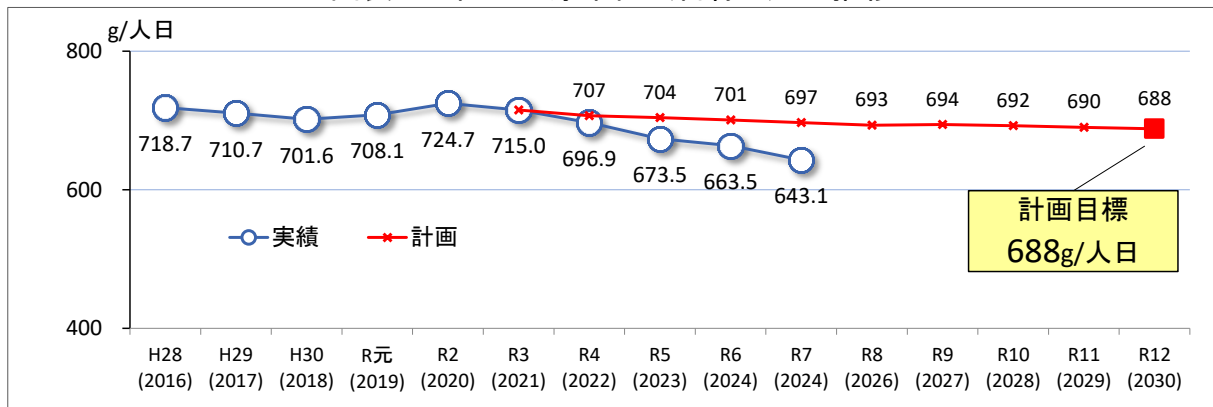
計画策定時のごみ量見通しと、ごみ量実績との乖離が生じています。

- 現行計画の目標は、家庭ごみ・資源量がコロナ禍で増加した時点でのごみ量見通しを元に設定しておりますが、例えば総ごみ原単位（目標 1）の実績値を見ると、物価高騰による買い控え等の影響により、すでに目標値を下回って推移しています。
- また、ごみ量見通しの元となる市の人口推計も令和 8 年 3 月に改定されています。

図表 1 現行のごみ処理基本計画の施策体系



図表 2 総ごみ原単位（目標 1）の推移



(3) 中間年度見直しの方向性について

- 前項の①～③をふまえ、市では計画の中間年度見直しについて、計画の理念や施策体系を見直す「計画改定」ではなく、ごみ量等の統計データを最新のものに更新し計画目標の見直すことを中心に、「時点修正」を行います。
- 計画の時点修正（案）は、資料 2 のとおりです。修正箇所は赤字となっています。
- 計画の章ごとの時点修正（案）の概要は、下表のとおりです。

図表 3 現行計画の見直し項目（案）

章	主な内容	時点修正（案）の概要
第1章 計画の基本事項 (p.1～)	計画期間、計画の位置づけ、対象廃棄物など	なし
第2章 ごみ処理に関する現状と課題 (p.6～)	○本市の人口・ごみ量等の状況 ○国・都や国際的な動向 ○計画策定に向けての課題	■人口やごみ処理実績は最新データに更新しました。 ■国・都の計画等を更新された内容に差し替えました。 ■計画策定時と現状を比較し、乖離点等を記載しました。
第3章 ごみ処理の基本理念と目標 (p.22～)	○基本理念 ○各主体の役割 ○ごみ処理基本計画の体系と重点施策 ○計画目標	■計画の基本理念や施策体系、重点施策等は維持します。 ■計画目標は、ごみ・資源量の将来推計と実績とに乖離が生じているため変更します。
第4章 個別計画 (p.35～)	○発生・排出抑制計画 ○資源化計画 ○収集運搬・中間処理・処分計画 ○緊急事態への対応 ○情報発信及び連携・協働計画	■基本計画としての取組の枠組みは維持しつつ、取組の進捗度合い等に応じ、必要に応じ文言修正しました。 (例「ごみ対策課」→「資源循環推進課」、「ごみアプリ」→「ごみナビ」など)
第5章 生活排水処理基本計画 (p.51～)	○生活排水処理の方針 ○災害時の対応	なし
資料編 (p.52～)	○ごみ処理・リサイクル事業に関する資料 ○前回計画の進捗状況 ○ごみ量推計・目標設定資料	■ごみ処理・リサイクルの実績値を更新しました。 ■ごみ量推計、目標設定資料を更新しました。

(4) 計画目標の時点修正について

計画目標の時点修正は、以下の手順で行いました。(図表 4)

①トレンド推計

- 平成 28 年度から令和 7 年度のまでのごみや資源の収集・資源化実績に関する数式を当てはめ、現状のまま推移した場合のごみ・資源量の将来推計を行いました。

②品目別削減目標の設定

- 現状のまま推移した場合のトレンド推計から、さらにごみ減量・資源化を進めた場合の計画目標を再設定します。
- 具体的には現行計画と同様、重点施策の中から食品ロスや古紙、プラスチックの減量・資源化を取り上げ、それぞれの削減目標を設定しています。
- 計画目標達成に向けた取組の例としては、以下が挙げられます。
 - ・ セブンイレブン店舗との連携によるフードドライブ事業（食品ロス削減）
 - ・ 廃食用油の拠点回収事業の周知・拡大
 - ・ ごみナビによる分別ルールの徹底（災害モードでの災害時の分別等案内）
 - ・ 製品プラスチックの分別・資源化の検討

※ 計画目標の達成に向けた取組については、より効果的なもののご提案等、ご意見があればお願いいたします。

③令和 12 年度の計画目標（見直し）

- 品目別の削減目標をまとめ、令和 12 年度の計画目標を算定しました。
- 詳細は資料 2 の資料編をご参照ください。

図表 4 計画目標の設定手順

